

2012.05.09

「不正義不道徳が罷り通るこの国は、崩壊寸前だ！」

こんにちは、参議院議員の西田昌司です。今日は5月8日、火曜日です。連休が明けまして最初のビデオレターになりますけれども、連休が明けますと、野田内閣では、税と社会保障の一体改革の特別委員会を設置して、衆議院で議論を始めるということになっているようです。参議院の方で問責を田中大臣、前田大臣、2人の大臣に出し、国会の一院で問責を出しているのですから、私は議論をする前に、まずその問責された大臣の辞任がないと、与党として、政府として一体国会の問題提起に対して何の対応をしているのか、不問のままにされることに、私は非常に強い違和感を感じています。彼らは問題があるという指摘をされても、そのまま素通りしてしまうのは問題です。

今回、同時に小沢氏の無罪判決を受けて、党の役職停止処分の解除を行うということも報道されています。これもとんでもない話で、無罪判決が出たけれども、これは刑事罰を受けなかっただけで、問題となった虚偽記載は事実であると裁判所は認定しているし、それをしたのが小沢氏の直属の秘書であり、三人が起訴され有罪判決を受けている。これではまぎれもなく政治的責任、道義的責任が免れないのです。単に刑事的な罰を受けなかったから自分は無罪で政治の最前線に、躍り出る、返り咲くということはありませんでしょうか。

もしこれが民間企業で同じことがあったらどうなりますか。社長が会社の財

務諸表の報告についてとんでもない報告を出した。担当の総務部長や取締役は処分されて犯罪として逮捕も起訴もされ、有罪判決も受けた。ところが社長がどこまで関与していたのかという物証がなかったから、社長の刑事責任は問われなかった。このような事件があった場合、間違いなく社長は引退する。少なくとも代表取締役の座を去るのは常識ではないですか。

それがなぜ政界では非常識になるのでしょうか。まさに民主党の出まかせ、出鱈目がここに象徴されているわけですが、そのことをマスコミ自体も書かないわけです。何度も言っていますけれども、今のこの不正常な状態はマスコミ自体がその不正常さを見過ごし、スルーしてしまうことからきているのです。これは、適切ではないかもしれませんが、笑ってしまう話です。

昭和のいる・こいるさん、という漫才コンビがいますけれども、この方々ボケとツッコミが非常におもしろいのですが、いくらボケてもツッコんでも、ああそうそうそう、と素通りする、という漫才のパターンになっています。民主党とマスコミはまさにこれと同じです。我々も参議院で様々な問題点を取り上げてきましたが、どれだけ不正義不道徳が行われても、スルーされてしまったら、そもそも言論の府としての国会の意義、機能を果たすことができないのです。このことを是非皆様方に気づいて頂きたいと思っています。

それから、この連休が明けて良い天気が続いていますが、いよいよ今夏の電力の問題が現実の問題となっています。私は京都府の選出ですが、関西電力で

は15%近い電力不足が予想されていますから、このまま、大飯原子力発電所が稼働されなければ、定期的な計画停電が余儀なくされます。けれども、これが一体どういうことになるのか、民主党政権はまともに考えたことがあるのかという事です。そして、昼間、会社の操業が止まってしまう、家庭の中でも、病院の中でも民生用の電力が無くなって、暑い夏を非常に厳しい思いで過ごさなくてはならないだけではなくて、そもそも産業が止まってしまうのです。電車も工場も止まる、そのことによって雇用はどうなるのでしょうか。皆様方のお給料はどうなるのでしょうか。ますます失業者は増え、そして雇用は不安定になり、所得が減る。これは、まさにデフレそのものをより増幅させるのです。

今回、野田総理が命がけでやると言う消費税増税案ですが、消費税増税をするに至った経緯はデフレのために国民の所得、経済が下がり、税収も下がってしまったことにあります。本来はこの所得をどうやって立て直して、上げていくかと言うことを考えなければならないのに、野田総理の頭の中にあるのは税収が減ったら財源を確保する為に増税する、これしかないのです。その増税をすれば、デフレになるだけではなくて、関西地方に限らず、日本全国で電力需給ギャップがもたらす経済へのダメージというものを野田総理はまったく考えていません。

そして、私が一番腹立たしく思うのは民主党の一連の対応なのです。民主党は脱原発だということを菅氏の時代に唐突に言いました。それまでは、地

球温暖化防止、CO²削減すると言う事を含めて、勝手にCO²を25%削減する
ということを唐突に言いだし、原子力で50%まで電力を賄うと言うところまで
自分達で方針として出していたのを、急に脱原子力と言いだす。このこと自体、
一体何を言っているのか、ということなのです。しかし、菅氏がこの方針を出
したのは、もう政権がぼろぼろで退陣を余儀なくされていた頃です。そこに降
ってわいた大震災という国難に対し、特に脱原子力というものを使って、国民
の注目を集める。このポピュリズム、感情面に訴えていけば菅氏の人気ももう
一度戻ってくるという、明らかに見え透いた人気取りが脱原発、再生エネルギ
ーになってしまったのです。では本当に、原子力発電所を全て止めてしまって、
今夏の電力需要を補えるのかと言えば、これはありえません。もっと問題は、
仮に節電をして、冷夏を乗り切れたとしましても、次にもし、大震災や大災害
等様々なトラブルが起きた場合に、待ったなしで停電に日本全土が見舞われて
しまうのです。この時にもう、余剰電力はありませんからどうすることもでき
ない。今はまだ曲がりなりにも日本が暮らしていけているのは、余剰電力が十
分に余裕を持って供給体制が作られていたからです。このお陰で、先の原子力
大災害が起きても今はかろうじて持っているのです。こうしたことを彼らは全
く考えずに自分達が出した唐突な政策で、産業界だけでなく、国民生活を破壊
しようとしています。

彼らは政権浮揚のためにやったのですが、現実問題一年経ってみると、原子

力発電所を全部止めてしまったら、やっていけないということが分かり出したのです。だから、急に原子力発電所の再稼働の話を出してきたのです。ところが、今まで自分達が再稼働はさせない、脱原子力発電所だ、と出鱈目を言ってきたものですから、国民は一体どちらを信じたらいいのか、ということで戸惑っているわけです。そうした時にこの民主党政権は一体何をやったかと言えば、まず野田総理は何も発言しません。

あの原子力大災害の原因の一つが菅氏の初期対応にあります。ベントしている最中に現地に行って、そのためにベントが遅れている間に水素爆発が起きた、という疑いが濃厚ですけれども、その官邸の責任者だったのが枝野経産大臣です。原子力行政の責任者である経産大臣が、その東電の首根っこを押さえて、事実関係が国民に明らかにできない体制を作っているわけです。東電に、言う事を聞かなければ潰しちゃうぞ、という形で今の原子力行政が行われているのです。そして関電においては、「再稼働しなければ、そうですかと、国民の理解が得られないのであれば計画停電になり、計画停電をしたくないのであれば再稼働するしかありませんね」とまさに国民を脅しているわけです。そして、もし計画停電になっても、再稼働になっても、その責任はいずれにしろ国民の同意でやったのだから、国民の責任だ、とこういう話なのです。つまり、行政の長として責任を取るという姿勢が初めから全くないのです。こんな出鱈目な人間が行政の長をやっているということ自体、本当に私は憤りを通り越して、

憎しみさえ感じる訳なのです。

このような状態が続いていけば、日本の経済だけでなく、日本の国力は地に落ちてしまいます。それを阻止する為に、一日も早い政権交代、彼らを政権から引きずり降ろして正しい政治を行う、少なくとも原子力行政において原因を究明しなければならないし、いかなる事態があっても日本の国が倒れないように、日本のエネルギー、安全保障、食糧確保を立て直していかなければならないのです。そのためには民主党政治の数々の不正義がありますが、その個別論をいくらしても、全体として民主党がどれだけ酷いかという事実が薄まってしまふのです。そして、それをまともに報道しないマスコミの責任もありますけれども、このまま続いていくと本当に大変なことになります。ヨーロッパでは先日各国で選挙があつて、フランスでは政権交代をし、ギリシャでも与党が過半数を割る、こういう事態になりました。日本の中でも三年前に政権交代をしました。これがとんでもなかったということは国民の総意でしょう。

今我々がしなければならないのは、もう一度国民に信を問うて、本当にあれで良かったのか、このまま済ましていけばどういうことになるのかという事を国民にしっかりと認識してもらうことです。これからはじまる国会の中で民主党の問題点についての議論を、我々は再燃していかなければなりませんけれども、そのためにはまず、国民の大きな注目が民主党の出鱈目に集中することが必要なのです。是非とも皆様方にこのことをお詰め頂きたいと思います。今後

とも、私も全力で民主党を倒す為に頑張ります。よろしくお願いします。

本日も御覧頂きありがとうございました。